対象地域：岩手県

再生課題：里地里山の水辺及び、落葉広葉樹林の保全再生

久保川（くぼかわ）イーハトーブ自然再生協議会

再生目標

里地里山における侵略的外来種の防除、棚田や雑木林などの手入れを通じて生物多様性を保全し、その重要性を広く発信して地域内外の交流の活性化を目指す。

○ 事務局
久保川イーハートーブ自然再生研究所
○ 対象地域
岩手県一関市
（一関市久保川流域の羽根橋から上流の立石地域）
○ 協議会　：H21. 5.16 設立
○ 全体構想：H21. 5.16 策定
○ 実施計画：H21. 5.16 策定（ため池）
H22. 5.16 策定（広葉樹林）
H28. 3.25 策定（耕作放棄地）
（R7.3現在）

当該地域は、戦後の拡大造林や土地改良事業による水田整備などを免れてきた中山間地です。しかし近年、水田の乾田化や化学肥料・農薬の使用、侵略的外来種などの影響により、ため池を中心に在来の水生生物が減少。管理放棄された樹林では間伐や下草刈りが行われず、林床の植生が貧弱化しています。

そこで本協議会では、当該地域に残された生物多様性やそれを支える人の営みを適切に評価し、保全するために活動を始めました。生物多様性を脅かしている要因については、保全生態学を基礎とした科学的なモニタリングと検討によって丁寧に取り除いています。積極的に生物多様性を再生し、恵み豊かな里地里山の自然を次世代に引き継ぐことを目指して自然再生に取り組んでいます。

地域に600個点在するため池

自然再生の手法

- 生物相のモニタリング調査
- 侵略的外来種の防除、耕作放置地の手入れ・ビオトープ造成など
- 調査や防除の結果より手法を模索
- 環境教育を通じた地域内外の交流

蘇ったニッコウキスゲ

企業参加のビオトープ造成作業